

平成18年のアユ産卵調査およびヒウオ生息状況調査結果

酒井明久・鈴木隆夫・田中秀具・井出充彦・臼杵崇広・関 慎介・藤岡康弘

◆背景・目的

加入前のアユ資源の水準を評価するため、産卵状況およびヒウオ（アユ仔魚）生息状況を調査した。

◆成果の内容・特徴

- ・ 県内の主要産卵河川（11河川1分流）において、平成18年8月下旬から10月にかけて5回実施した産卵調査では、平年値の8割に相当する88億粒の有効産卵数が認められた（図1）。
- ・ 産卵盛期は9月中旬に認められたが、その直後に河川水量が減少し、9月下旬以降死卵の割合が増加した（図2）。
- ・ 琵琶湖北湖において、平成18年10月から12月にかけて3回実施したヒウオ生息状況調査では、そのすべてにおいて採集尾数が平年値の5割以下であった（図3）。

◆成果の活用・留意点

- ・ 平成19年漁期のアユ資源は低水準と予測される。この原因は、産卵数が平年をやや下回ったことに加えて、河川水量の減少に伴うふ化率の低下によると考えられる。

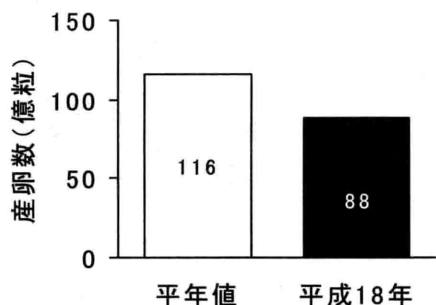


図1 平成18年の天然河川における産卵数。（平年値は平成8～17年の最大・最小を除く8年間の平均）

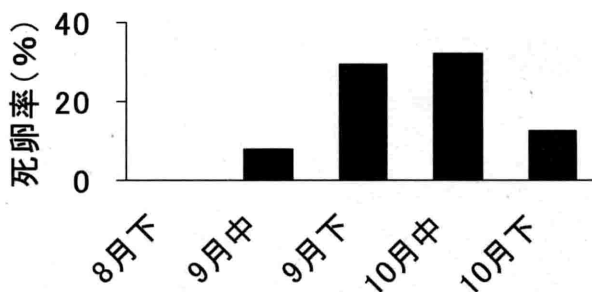


図2 総産卵数に占める死卵の割合。

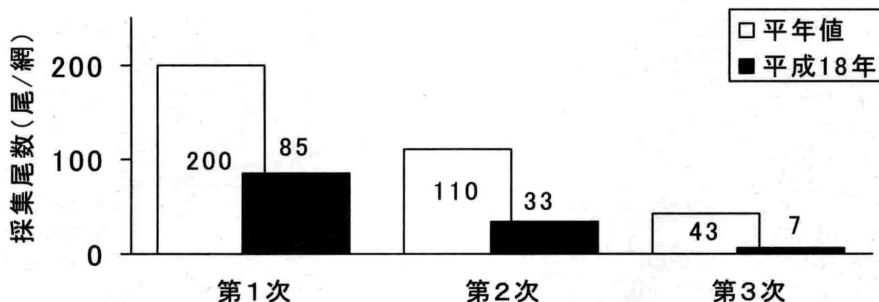


図3 平成18年のヒウオ生息状況調査結果。（平年値は平成8～17年の最大・最小および欠測を除く7年または8年間の平均）